

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：25501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24530641

研究課題名(和文) 移動と定住における類縁関係の発動と制度化に関する研究

研究課題名(英文) Community and Emigration of Catholic in Japan

研究代表者

叶堂 隆三 (KANADO, Ryuzo)

下関市立大学・経済学部・教授

研究者番号：50224580

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：まず、カトリック信徒の移動と類縁関係の発動というテーマに関して、均分相続慣習の存在および存続が関係したことが判明した。また、長崎市外海地区の出津小教区等の洗礼者数から、恒常的に高い出生数が明らかになったものの、各集落の人口(信徒数)が一定数に維持されていた状況から、他出によって人口の維持を図るという地域維持の社会技術がうかがえた。

次に、カトリック・コミュニティの形成と多様な展開というテーマに関して、都市化・工業化の進展とともに地域状況が大きく変容した開拓移住等の小教区では、都市化に伴う職業の多様化に加えて、信徒の比率の低下と宗教コミュニティの類型の変化が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：At first, about a theme of emigration of the Catholic and the motion of the affinity, It was proved that the existence of the inheritance by equal distribution custom. In addition, although the number of the high birth became clear from the number of the baptizer of a parish of the Nagasaki-city, social technology of maintenance of the population of each village by emigration was existed.

Then, about a theme called the formation of the Catholic communities and a variety of these development, the decrease of the ratio of the believer and the diversification of the occupation with the urbanization became clear.

研究分野：社会学

キーワード：コミュニティ 類縁関係 カトリック信徒 移動

1. 研究開始当初の背景

一般に、都市に誕生した「新しい」町はよそ者の「寄せ集め」と見られてきたが、近年、同郷関係に依拠した都市集住地への選択移動や生活の共同の事例が発見されるようになってきている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、九州地方のカトリック集落の出身者の集住地への選択的移動と出身地のコミュニティの「再生」志向 教会づくりといった類縁関係の制度化の事例を通して、新たなコミュニティの形成において類縁関係・同郷関係・親族関係等の社会関係が発動する状況を解明することである。

とりわけ、類縁関係の制度化や複数の社会関係の重層による補強効果に焦点を当て、都市社会における類縁関係を基盤にしたコミュニティの誕生の可能性やその存続の背景・要件を究明していくことをめざした。

3. 研究の方法

(1) 先行・関連する研究の文献研究を実施した。シカゴ学派等の移民研究、関西都市圏における同郷集団、同郷・同業者の組織、民族組織・集住地に関する研究、第二次世界大戦後の開拓村の研究、現代日本における宗教状況および日本におけるカトリックの概要と宗教と地域社会の関係、に関して文献研究を通して既存の研究・情報を収集・整理した。

(2) また都市の集住地・開拓地および移住信徒の出身集落をセットとして数多くの事例調査を実施した。

4. 研究成果

(1) カトリック信徒の移動と類縁関係の発動 長崎の信徒の開拓移住とコミュニティの形成 というテーマに関して、次の結果が得られた。

長崎の半島・離島のカトリック信徒の集团的・連鎖的移動を江戸後期・明治以後の

開拓移住に由来するという見地を提示し、この基本的視点に関連する想定として、第1に、信徒の移動の社会的背景として、キリシタン時代以来の均分相続制および江戸末期、さらに明治以降の過剰人口の発生という想定、第2に、移住の社会的特徴として、挙家離村および集团的・連鎖的移動および、時として、社会資源が関与するという想定を立て、加えて、信徒の定住や連鎖的移動や新たな他出に関係する要因として、移住地の規模や生産条件等の及ぼす影響を想定し、その影響の把握をめざした。

こうした観点・想定に関する事例調査を通して、江戸後期・江戸末期の移住が藩の開拓政策に応じた開拓移住であったこと、藩や入会地の所有村、土地の所有者の許可を得た上の開拓移住であったことが判明した。とりわけ藩馬の牧場地跡への入植が多いことが特徴と判明した。しかし、信徒の開拓移住地の多くは、半島・離島の丘陵地や山間地等の条件不利地区である。信仰の保持の点では有利であったものの、低い農業生産性や土地の狭小性のために、その移住地でさらなる移住が発生することが明らかになった。

明治期の移住地は、土地の購入による開拓移住や借地(小作)等であったことが各種調査を通して判明した。この時期の移住地の中には、開拓地の購入費用に外国人神父や同郷の教役者の主導や勧誘による移住地が存在したことも判明した。また、明治中期以後の移住に関して、後発の移住のため、地代・小作料の安い条件不利地あるいは高い小作料のために離農の激しい地への移住も多く生じていることも判明した。その一方、都市化・工業化の進行によって、この時期の移住地の中には、その後、農業移住地に非農業の信徒が来住することに伴う信徒間の職業分化が発生したところも明らかになった。

さらに大正・昭和期の開拓移住地の中に国の開拓政策に基づく場所が相当数存在することが各種調査を通して判明した。とりわけ信徒の移住地のさらに奥の丘陵や山間地に用意された開拓地が多いことが明らかになった。こうした事情のため、第二次世界大戦後の開拓地は農業生産および居住においてもとりわけ深刻な条件不利地といえる場所であったと判明した。その一方で、第二次世界大戦後の自作農創設および軍用地の開放等の政策が、戦前の多くの移住地に居住する信徒の生活状況を大きく変容させたことも明らかになった。また都市化や工業化の進行で、その後、こうした移住地に多くの信徒・非信徒の流入が生じ、地域状況が大きく変化したことも判明した。

以上の長崎の信徒の間に発生した集団的・連鎖的移住の背景として、調査事例を通して次の諸点が判明した。すなわち、長崎の半島・離島の信徒集落における相続慣習の一つとして、従来、指摘されてきた均分相続慣習の存在および存続したことである。また、長崎市外海地区の出津小教区や北松浦半島、平戸島の洗礼者数から、恒常的に高い出生数が明らかになったものの、各集落の人口（信徒数）が一定数に維持されていた状況から、乳幼児死亡率の高い時期ではあるものの、他出によって人口の維持が図られるという地域維持の社会技術がうかがえた。

一方、開拓移住地における世帯数の増加は、草分け等の初期の移住世帯における分家の創出およびその後の来住信徒世帯の連鎖的移動が主な要因であることが判明した。その第1の要因の分家世帯の創出に関して、多くの開拓移住地では、定住後に非常に高い出生率で次世代が生じ、子ども世代の成長後、信徒世帯に分家が創出されて世帯が急増につながる。こうした状況はいずれの時期の移住地でも同様である。第2の要因

の新たな世帯の来住に関して、草分けの世帯の定住後、草分け世帯と類縁関係に加えて何らかの社会関係（親族関係・地縁関係等）を保持する世帯の移住によって世帯が増加したことが判明した。

こうした世帯の増加は、信徒の移住が許可された移住地の範囲あるいはその周辺に開拓や農業移住あるいは小作が可能な土地の有無が関係することも判明した。その一方で、小規模な開拓移住地においても世帯規模が拡大したり、信徒の居住が周辺に広がる展開が存在する集落の状況が判明した。これらの集落は、開墾作業時の世帯収入の確保のために副業・兼業、とりわけ多い漁労に従事し、明治中期以降に生産基盤が水産業に転換し、漁労従事者が必要な集落であったことが明らかになった。

次に、(2)カトリック・コミュニティの形成と多様な展開 長崎の山中の教会と海辺の教会の誕生とその社会的背景 というテーマに関して、次の結果が得られた。

基本的視点観点として、長崎の半島・離島出身の信徒が保持する宗教コミュニティ形成の志向性を提示し、この志向性が信仰および同業関係を基盤とした生活全般の共同を特徴とする意図的コミュニティの経験に由来し、その経験者に共有されると想定した。さらに、次の4点の分析視点を設定した。第1は、宗教コミュニティ形成の過程の把握である。第2は、宗教コミュニティ形成にまつわる外部の関与への着目である。第3に、宗教コミュニティの変容の把握である。すなわち宗教コミュニティの変容が、意図的コミュニティから他の宗教コミュニティの類型への移行という形で把握できるように設定した。第4は、教会内の信徒の間関係、さらに教会の間関係への着目である。こうした分析視点を取り入れて、宗教コミュニティ形成の経緯と過程、宗教コミュニティ形成における信徒と外部

の社会組織・社会資源との関係性、移住地に形成した意図的コミュニティの変容と展開の社会的特徴の解明をめざした。

その結果、開拓移住地の宗教コミュニティ形成の過程に関して、信徒主導の宗教コミュニティの形成の場合、民家御堂の段階から始まったケースが多数であることが判明した。また、宗教コミュニティ形成における信徒と外部の社会組織・社会資源との関係性に関して、開拓移住地における宗教コミュニティの形成に地区・集落の信徒以外の社会関係(社会組織)・社会資源がさまざまに関係する状況が判明した。さらに、開拓移住地に形成された意図的コミュニティの多くで、地域状況の変化の影響に由来するコミュニティの状況の変化や新たな教会の誕生といった展開が発生する状況が明らかになった。

この意図的コミュニティの変容に関して、開拓移住地における信徒と非信徒の居住状況および信徒間の同業関係の2軸によって、4つのタイプの宗教コミュニティ類型を設定し、事例調査を通してコミュニティ状況およびコミュニティの変容の解明をめざした。まず意図的コミュニティの類型に関して、長崎の半島・離島出身者の開拓移住地の当初の状況が、ほとんどが意図的コミュニティであったことが判明した。また、意図的コミュニティにおける生活の共同は、昭和初期、平戸口社会館の設立や保育事業等の共助型サービスとして制度化され、北松浦半島の宗教コミュニティに普及したことが明らかになった。次に、(非農業型)意図的コミュニティ類型に関して、産炭地の調査事例から、従業員に占める信徒比率は低いものの、同業および宗教関係の二重の関係性で結ばれた一定数の信徒の存在と宗教コミュニティ形成の志向性が確認できた。さらに、(経年化した)意図的コミュニティの類型に関して、開拓移住地が都市の

一部に組み込まれて郊外化したり、交通の発達によって近郊化するにつれて、しだいに意図的コミュニティの信徒状況の変化する移住地が多く見られた。最後に、信仰コミュニティの類型に関して、都市化・工業化の進展とともに地域状況が大きく変容した開拓移住や都市中心部に教会が立地し広域の範疇を管轄する小教区では、都市化に伴う職業の多様化に加えて、集住地や小教区の範疇に占める信徒の比率が大幅に低下する状況が判明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

叶堂隆三、新しいマチの現在 都市におけるカトリック・コミュニティの形成とその後、西日本社会学会年報、査読有、10号、2012、31-55。

叶堂隆三、開拓集落の形成と信仰の移築 長崎のカトリック信徒の宮崎法光坊地区への移住とコミュニティ形成、下関市立大学論集、査読無、第147号、2014、27-46。

叶堂隆三、長崎県のカトリック信徒の移住と宗教コミュニティ形成 家族戦略から生成された地域戦略と外国人神父の宣教戦略、下関市立大学論集、査読無、第148号、2014、1-26。

叶堂隆三、行橋市新田原と上五島青方への移住とコミュニティ形成 長崎市外海地区からの第4次移住地の状況、下関市立大学論集、査読無、第149号、2014、11-35。

叶堂隆三、第2次移住地への移住とコミュニティの形成 長崎県北松地域禰崎地区、下関市立大学論集第、査読無、150号、2015、19-39。

叶堂隆三、長崎県佐世保市神崎地区におけるコミュニティ形成 第2次移住地への移住とコミュニティの形成 -、やまぐち地域社会研究、査読有、12号、山口地域社会

学会、2015、1-16。

叶堂隆三、平戸市田平地区における宗教コミュニティの形成と展開、下関市立大学論集、査読無、151号、2015、1-29。

叶堂隆三、平戸市北部への移住と宗教コミュニティの形成、下関市立大学論集、査読無、152号、2015、1-22。

叶堂隆三、産炭地における宗教コミュニティの形成 長崎県北松地区への移住と平戸小教区の形成、やまぐち地域社会学会、査読有、13号、2015、97-110。

叶堂隆三、佐世保市への移住と宗教コミュニティの形成、下関市立大学論集、査読無、153号、2016、15-38。

叶堂隆三、大村市への移住と宗教コミュニティの形成、下関市立大学論集、査読無、154号、2016、1-25。

叶堂隆三、平戸島中南部における宗教コミュニティの形成、下関市立大学論集、査読無、155号、2016、1-29。

叶堂隆三、長崎市周辺地への移住と宗教コミュニティの形成、下関市立大学論集、査読無、156号、2017、1-21。

〔学会発表〕(計1件)

叶堂隆三、奄美地域出身者の選択的移動とコミュニティの形成 鹿児島市鴨池地区における集住と類縁関係の発動、西日本社会学会第70回大会(鹿児島大学)〔図書〕(計1件)

〔産業財産権〕

出願状況(計1件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計1件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
報告書

叶堂隆三・横田尚俊、南九州における宗教コミュニティの形成 長崎県からの移住と宮崎市田野教会・鹿児島県奄美地域からの移住と鹿児島市鴨池教会(研究報告書) 下関市立大学叶堂研究室、2015。
叶堂隆三、2012年度～2016年度科学研究費補助金 移住と定住における類縁関係の発動と制度化に関する研究 成果報告書 カトリック信徒の移動と類縁関係の発動、下関市立大学叶堂研究室、2017。
叶堂隆三、2012年度～2016年度科学研究費補助金 移住と定住における類縁関係の発動と制度化に関する研究 成果報告書 カトリック・コミュニティの形成と多様な展開、下関市立大学叶堂研究室、2017。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

叶堂 隆三(KANADO Ryuzo)
下関市立大学・経済学部・教授
研究者番号：50224580

(2) 研究分担者

横田尚俊(YOKOTA Naotoshi)
山口大学・人文学部・教授
研究者番号：10240194

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()